

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設名	永福ここわ保育園
法人名	株式会社ディアローク
法人所在地	東京都渋谷区渋谷3-8-12 渋谷第一生命ビルディング7階

1. 活動のテーマ

<テーマ>

当園が開園以来継続して行っている教育活動の中の【英語】を活かしながら【ことば】についての探究活動を実践し、非認知能力の向上等の保育内容の充実を図ります。2025年度はことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目をします。

<テーマの設定理由>

当園は開園以来、外国人英語講師が週2日来園し、レッスンでは保育者も生徒として園児と一緒にレッスンを受け、保育者も園児も英語は身近なことばとして存在しています。2024年度は子どもたちが同じ絵本、同じメロディの歌を日本語と英語で体験、体感することで、ことばに対する興味が拡がりました。2025年度は子どもたちがさらに主体性を持って活動するように、ことばの中でも英語と日本語の【オノマトペ】に注目しようと考えました。

2. 活動スケジュール

【対象】 5歳児クラス

【問いかけ】 保育者が動物の鳴き声について問いかけました。「この動物はなんて鳴くか知っている?」「英語でも同じ鳴き声なのかな?」子どもたちは「英語と日本語だと動物の名前が違うから、きっと鳴き声も違うんだよ。」日本語と英語は違うことばということは理解しているようです。

【流れ】 英語講師の来園日には、英語で動物の鳴き声の入った歌を歌ったり、動物以外の擬態語や擬音語《オノマトペ》の入った英語絵本の読み聞かせなどを行い、保育者は子どもたちと一緒に参加します。また、実際に園内や戸外で見聞きしたオノマトペを集め、それらを英語講師に英語でどのように言うのか尋ねてコミュニケーションを取ります。このように、子どもも大人も一緒に英語と日本語での《オノマトペ》を共有します。

【探究活動の実践と記録】 英語活動の際には保育者が記録し、日本語活動の際には保育者とともに英語講師も記録し、特に子どもが英語を発している際のことばや音の聞き分けを担当しました。

【振り返りや共有】 毎月月末に英語講師と職員のブリーフィングをおこなっているので、そこで探究活動の共有を行い、次月の問いを考え環境設定や探究活動のスケジュールを話し合います。保育者同士は職員会議で振り返りや共有を行います。

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

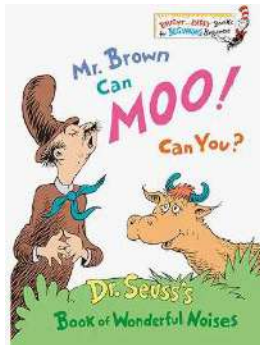
【環境設定】英語講師の来園日に探究活動を行うよう環境を設定しました。

【素材】

* 同じメロディの日本語と英語の歌：「ゆかいな牧場」と"Old McDonald had a farm"

* 英語のオノマトペ絵本："Mr. Brown can moo"

* 絵カード：動物、乗り物、オノマトペ絵カード



4 -①. 探究活動の実践（日本語）

<活動の内容>

「ゆかいな牧場」を保育者が日本語で歌う。英語講師も同席して一緒に聞く。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

- ・ 「ゆかいなまきば」の歌詞はすぐに覚え、日常の中でも口ずさんでいる姿が多く見られた。歌詞にはヒヨコはチッチッチという鳴き方だが、子どもたちからヒヨコは「ピーピーって鳴くよ」と違う鳴き方を発言する子がいた。
- ・ 歌詞をアレンジして、他の種類の動物バージョンをみんなで考えた。動物の鳴き声でしまうまは「パカパカ」やカエルは「ぴょんぴょん」などが挙がったが、話を進めていくうちに「パカパカとは鳴かないね」と鳴き声ではなく動きのイメージによるオノマトペだということに気付いていた。

4-①. 探究活動の実践（英語）

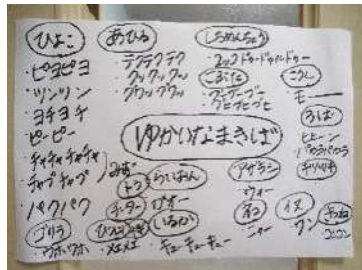
<活動の内容>

「ゆかいな牧場」と同じメロディ"Old McDonald"を英語で歌う。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・英語版のゆかいなまきばの曲を聞きながら日本版との違いを探した。講師が発音する動物の鳴き声を子どもたちも複唱し、「おもしろい!」「うまく言えないよ」と笑いながら呟いていた。保育者が「日本語ではどうやって鳴くんだっけ?」と聞き、日本語と英語の違いを比べてみた。

・なぜ違いがあるのかを子どもたちに問い掛けてみると、「日本語と英語で言葉が違うもんね」「住んでいる場所が違うからだよ」などそれぞれ考えを巡らせて答えていた。



5-①. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】日本語と英語で鳴き声は違うだろうという予測は子どもたちの中でできていた様子だった。歌詞以外の動物の鳴き声も自分たちで考えることで更に関心を深めることができた。擬態語（動物の動き）と擬声語（鳴き声）のオノマトペが混ざっていたことにもみんなで見つけることができた。

【次回への問い】・子どもたちから挙がった歌詞以外の動物は英語だとどのように鳴くのかを英語講師に尋ねてみたら興味は深まるのだろうか？

・違う種類の英語のオノマトペを聞いたなら子どもたちはどのように気づき反応するだろうか？

4-②. 探究活動の実践

<活動の内容>

他の動物は英語だとどのように鳴くのか英語講師に聞いてみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・保育者が英語講師に鳴き声について尋ねてその回答を聞くと、「えー、そうなの!？」「ほんとうに!？」と不思議そうにする反応を見せていた。中には「ニワトリはクックドゥルドゥーだよな?」と自分の知っている英語の鳴き声を確認する子もいた。日本語での鳴き声と似ている動物（犬など）は、「似てる!」「えー、あまり似てないよ」とそれぞれ違う感じ方を共有していた。

4-②. 探究活動の実践

<活動の内容>

オノマトペが出てくる英語絵本を英語講師が読む。"Mr. Brown can moo"

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・講師が絵本に出てくるオノマトペをジェスチャー付きで読み上げる度に、子どもたちは笑いながら見入っていた。特に雨の音（dibble dibble dopp）の語呂の良さとジェスチャーが気に入ったようで、真似して発音してみる子も見られた。

・保育者が子どもたちに「みんなは雨が降っている時にどんなふうに聞こえる？」といくつかの生活音について尋ねると、初めはなかなか思いつかない様子もあったが次第に様々な答えが返ってきた。同じ生活音でも「雨の音」は「ザーザー」や「パラパラ」、「足音」は「ドドド」「ダンダン」など、一人ひとり違った日本語の表現をしていた。



5-②. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】一人ひとりの感じ方を受け止めていくことで聞こえ方は一つではなく複数あることに気付けるようにした。また、英語のオノマトペの意味は理解できなくてもリズムカルな単語だったりジェスチャーなどに面白さを感じたりすると惹きつけられて真似する様子が見られた。

【次回への問い】英語講師、保育者も含めてオノマトペ絵カード遊びを行ったら子どもたちは擬音語や擬態語にどのように興味を深めていくのだろうか？

4-③.探究活動の実践

<活動の内容>

オノマトペ絵カードを使って英語講師と一緒にカード遊びをする。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・カードに描いてある絵を見て、最初の一人がオノマトペをひとつ言うと「ああ、それか」と周囲の子は考えるのをやめたり「正解はなに？」と答えを求める姿があったが、進めていくうちに自分なりに感じた音をオノマトペで発するようになった。

・実際に聞こえる音(くしゃくしゃ、どんどん等=擬音語)は思いつきやすいようだが、聞こえない音(ポーッと、うとうと等=擬態語)はなかなか難しいようだった。

・日本語のオノマトペは二つの言葉が続いているものが多いが(わくわく等)、英語だと全く違う言葉になっていることに気が付き、「ぜんぜんちがうね」と言う子がいた。日本語よりも英語の方がオノマトペが少ないと講師から教わったが、「そうなんだあ」とあまり納得している表情ではなく日本語と英語の違いを実感している様子だった。



5-③. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】カードに書いてある絵を見ただけではイメージしづらいのではと疑問を抱いた。実際に経験したり見聞きした方が子どもたちからオノマトペが出やすいのかもしれない。

【次回への問い】身近に聞こえてくる自然音や生活音は子どもたちはどのように日本語で表現するのだろうか？

4-④. 探究活動の実践

<活動の内容>

戸外活動の中で自然音や生活音を探してみる。

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

・近所の民家の塀をアリが登っている様子を見て「一生懸命頑張っているよ」と観察していたので、保育者が「どんなふうに登ってるかな？」と尋ねると「テクテク登ってる」と返ってきた。他にもてんとう虫が飛び立つ様子を「ぽわーん」、風で葉っぱが揺れている音を「さわさわ」と表現する子もいた。

・2回目の散歩では目に見えない音にも意識を向けていた。遠くから聞こえる車の音を聞いて「ピーギーって聞こえた」「ピーはバックでギーは出発したのかな」など、予想しながら聞こえてくる生活音を楽しんでいた。また、フェンスの向こう側から野球ボールを打つ音が聞こえると、「バンって聞こえた」「なんの音だろう、ゴルフかな」と友だち同士で話す子もいた。



5-④. 振り返りと次回への問い

<振り返りによって得た先生の気づき>

【振り返り】

・初めは保育者から音に耳を傾けられるように促していたが、次第に子どもたちの方から様々な音に気づきオノマトペで表現するようになった。また、以前に比べて擬音語だけでなく擬声語も出るようになり、子どもたちの中でオノマトペの幅が広がっているのではと感じた。

【次回への問い】

自分たちで見つけたオノマトペは英語でどのように言うのか英語講師に聞いてみたらどのように反応するのだろうか？

